

わかすげ

題字 院長 神 雅彦



題 野辺地病院 山田 芳松・作

わかすげの由来：菅（すげ）は、繁殖力の強い植物で、古来から当地域には、菅笠、菅畳、菅枕等々生活に欠かせない貴重なものであった。

当院の看護師寮に「わかすげ寮」と名づけられているように、将来に期待される力強さと若い菅（職員）が地域医療の確保に一層努力することから。

基本理念

- ・ 患者さんの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- ・ 研鑽に励み、質の高い医療を提供します。
- ・ 保健・福祉と連携し、心あたたまる医療を提供します。

巻頭言

小児科医長
敦賀 和志



インфекションコントロール (病院感染対策の基本)

ここ数年で院内感染対策の関心が高まってきています。どこの病院でも感染対策委員会が置かれ、感染対策マニュアルが作られました。総合病院クラスでは専任の医師、看護師、薬剤師、検査技師が業務を行っていますが、ほとんどの病院では兼任です。その活動も、実際には機能していない場合が少なくありません。当院でも委員会の下にICT (infection control team) を置いて院内巡視やマニュアル作成、改訂などの活動をしてはいますが、時間がとれずになかなか思うような成果をあげられません。

感染対策の内容も日進月歩です。粘着マット、紫外線殺菌灯など今まで慣習的によかれと思われて行っていたことが、実は感染防止には役立っていないことがわかり廃止されています。最近のトピックとしては、手術室の手洗い水が滅菌水でなくても良くなったことです。水道水レベルでも感染防御に対してはかわりがないということです。さらに、手洗いの方法も検討されています。すなわち、今までブラシでゴシゴシ擦っていましたが肌に傷を付けて良くないので、ブラシ無しのもみ洗いで行った方が良いのではないかとということです。近い将来、手術室から手洗いブラシが無くなるかもしれません。

こうした情報を病院職員の皆様に伝えるのも私

たちの仕事です。新しい情報が正確かどうか判断し、当院に適応するかどうか検討しなければなりません。何でも新しいものを導入しどんどん買っていくのは病院経営が成り立ちませんので、無駄なもの unnecessaryなものは廃止し必要なものだけ導入することによってコスト削減を行うことも必要不可欠です。

感染対策でよく聞く言葉に標準予防策（スタンダードプリコーション standard precaution、SP）というものがあります。SPとは、米国疾病対策センター（CDC）が発表した病院感染対策の基本的な方法です。その概念は、血液、体液、喀痰、尿、便など全ての湿性生体物質は感染性がある、すなわち病原体を含んでいる可能性があるときみなして対応することです。標準予防策は感染の有無に関わらず、全ての患者、すなわち入院、入所患者及び外来、在宅患者にも適応されます。そして感染経路別予防策（空気予防策、飛沫予防策、接触予防策）はSPの実施を前提としていますので、医療従事者はまずSPを習熟しなければなりません。

あまり深く考えると行き詰りますので、まずは手洗い、ふき取り、乾燥、そしてアルコール、手指消毒から始めてみましょう。自分たちの手を介しての感染は何としても防ぎたいものです。

新ドクター紹介



内科医長
金澤 洋

- 1 青森市
- 2 昭和44年1月20日
- 3 旅行
- 4 特になし
- 5 働きやすい環境とと思いました。
- 6 地域医療に貢献できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



整形外科副医長
前田 周吾

- 1 八戸市
- 2 昭和51年5月24日
- 3 野球、スポーツ観戦
- 4 気合いと根性
- 5 迷路…
- 6 頑張ります。

1. 出身地
2. 生年月日
3. 趣味

4. 座右の銘
5. 野辺地病院の感想
6. 抱負



脳神経外科医長
田畑 英史

- 1 北海道
- 2 昭和46年1月13日
- 3 パソコン、パ〇〇ロ、ドライブ
- 4 来るものは拒まず、去るものは追わず。
- 5 (まだ野辺地病院の感想は？と聞かれてもすぐには答えられないですが)
野辺地にも早く春が来てほしいと思います。
- 6 以前から、非常勤で来院しお手伝いさせて頂いた経験はございますが、これから常勤で勤務することになりました。先輩方の築き上げた伝統をうまく継承しつつ、自分の持ち味を生かすことが少しでもできればいいなと思います。これから何かと諸先生方、スタッフ御一同の方々には御迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、よろしく御指導、御鞭撻のほどお願い申し上げます。

OB便り

昭和40年頃の回想録

元事務次長
上野 修一



現在、公立野辺地病院は「へき地中核病院」の指定を受け、へき地巡回診療を実施しております。組合病院設立当時には、横浜診療所、平沼診療所とも医師1名が常勤しておりましたが、平沼診療所の医師が退職(昭和38年頃)したことにより、六ヶ所村が無医村となりました。六ヶ所村からの交通の便は悪く、野辺地病院までの通院は大変なことから、巡回診療を実施することとなり、当時の沼田村長さん方の努力下、巡回診療車(マイクロバス)を購入し、毎週1回(2日間)巡回することとなりました。スタッフは、医師、看護師、事務員各1名、専用運転手1名の計4名。巡回1日目は、室ノ久保地区、農林省原々種農場、尾駮地区の順で尾駮に一泊。二日目は、新納屋地区、平沼地区、そして千歳地区を最後に帰院するという日程と記憶しております。

当時の道路事情は最悪で、舗装道路はなく、雨が降ると泥濘ぬかるみとなり、室ノ久保の急な坂道は特にひどく、悪戦苦闘した事を思い出します。

又、農繁期になると患者さんが皆無の時もありました

が、今となっては懐かしい思い出です。

私達は巡回診療に行くのを楽しみにしておりました。その理由は、尾駮の米田旅館に一泊すると、ウナギの蒲焼、鯉のアライ等を食べられる事でした。また、村民の方々との出会いが何よりの楽しみでありました。

この巡回診療も病院自体の医師不足の為、3年位で終わりましたが、現在の巡回診療と違い、組合構成町村の医療確保の一環として、病院独自で実施した巡回診療でした。

今の巡回診療は、国が認定した無医地区だけに限られており、実績を基に国の補助金交付があり、病院経営に役立っておるものと認識しております。

最後になりましたが、地域住民の健康確保のため、公立野辺地病院が十分に力を発揮してくれることを期待しております。

職場紹介

外来診療室

看護師 入谷いづみ

外来では、30名の看護師が勤務しています。診療科は、内科、外科、皮膚科、泌尿器科、整形外科、歯科、小児科、脳外科、眼科、耳鼻科、婦人科があります。外来での業務は、午前中は外来患者さんの診療介助、検査介助などで、午後は、翌日検査の患者さんのカルテをそろえたり、その準備、外来でのクールをしている患者さんの物品準備や、午後の検査介助、午後に来た患者さんの診療介助、医師による写真みせ後のカルテと写真整理等です。

患者さんによく、「午後は何をしているの?」と聞かれることがあります。それは、午後は各科にこもってする業務が多い為、外来看護師をみかけなくなるのだと思います。



外来通院されている患者さんにとっては、病院＝外来看護師のイメージが大きいと思います。私達は、接遇に力を入れて、患者さんへのあいさつ、声かけ、笑顔での対応を心がけています。患者さんにより良いイメージを持ってもらえるよう、これからも、明るく、笑顔の絶えない外来の一員として、地域の患者さんへ貢献できるように努めていきたいと思っています。

看護長 福田 美知代

昨年4月に、特養施設「野辺地ホーム」より異動し、4年ぶりに再び病院勤務となりました。様変わりした野辺地病院の中で、右往左往しながらも、早1年が過ぎようとしています。透析室勤務は、5年ぶり2回目の配属で、なつかしい古巣に戻った様な感じでしたが、12月、正式に透析室勤務の辞令を受け、更に新たな心構えで役割に取り組んでおります。

当院の透析室は、平成8年の開設以来、今年ちょうど10年目の節目の年になります。当初は、医師1名、臨床工学技士1名、看護師4名、透析患者数名でのスタートでした。

現在は、副院長の高屋先生、野田頭先生、田澤先生の医師3名をはじめ、透析医療のプロフェッショナルであり、ユーモアあふれ、共に人間味豊かな臨床工学技士の横濱総括主任、荒川総括主任の2名、そして、ベテランで、いつも明るく、さわやかなリーダー的存在の駒ヶ嶺看護師、日本の美人でやさしい、ケアの達人古館看護師、経験豊富で観察力も鋭い後藤看護師、更に、透析室の母的存在として慕われている山田看護師と、新人(?)の私、総勢7名で構成されています。

患者は現在39名で(男性23名、女性16名)、各



透析室

人週2~3回の透析治療を受けています。そして、透析室業務は日曜を除く毎日稼働しており、月500件前後の透析を行っています。また、緊急透析、持続的血液濾過(CHDF)、腹水濃縮、その他の血液浄化、アフエリシス(血漿交換、血漿吸着など)にも対応しています。

その中で看護師は、ケアのみならず、感染事故防止対策、リスクマネジメント、食事・運動療法の指導、苦情の受入れや、心の問題への対応など、家族を含めた多方面の人々との協力のもと、重要な役割をこなしています。

日本で透析医療が開始されてから、30年がたちました。20年前には、更正医療の対象としても認められ、治療も急速に進歩し、現在では全国で30万人が透析治療を受けています。その目的は、一般の人と同様に少しでも長生きをし、その人らしい満足した生活を送ってもらう事にあります。透析治療を必要とする患者は、病院の設備、通院問題はもちろん、地理的問題など物理的条件のほか、多くの時間を共に過ごす事になる、病院職員、特に透析スタッフ一人一人の接遇をも求めています。突然透析を始める事になった患者の場合などには、不安感を少しでもやわらげ、安心して透析ができる様コミュニケーションを保ちながら、サポートする事が大切です。

また、常に合併症可能性の高い患者への個人に対応した食事・運動療法などの自己管理を中心とした透析生活ができるよう、援助していく必要があります。これからも、地域の皆様のために安全でよい透析を提供していくようスタッフ一同、努力して他科の皆様とも連携を保ちながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

医事課からのお知らせ

当院は患者さんの個人情報保護に全力で取り組んでいます。

患者さんの個人情報の保護について

当院では、患者さんに安心して医療を受けていただくために、安全な医療をご提供するとともに、患者さんの個人情報の取扱いにも、万全の体制で取り組んでいます。

★個人情報の利用目的について

当院では、患者さんの個人情報を右記の目的で利用させていただくことがございます。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さんからの同意を頂くことにしております。

★個人情報の開示・訂正・利用停止等について

当院では、患者さんの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定にしたがって進めております。

当院における個人情報の利用目的

- 医療提供
 - ・当院での医療サービスの提供
 - ・他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との連携
 - ・他の医療機関等からの照会への回答
 - ・患者さんの診療のため、外部の医師等の意見・助言を求める場合
 - ・検体検査業務の委託その他の業務委託
 - ・ご家族等への病状説明
 - ・その他、患者さんへの医療提供に関する利用
- 診療費請求のための事務
 - ・当院での医療・介護・労災保険、公費負担医療に関する事務およびその委託
 - ・審査支払機関へのレセプトの提出
 - ・審査支払機関又は保険者からの照会への回答
 - ・公費負担医療に関する行政機関等へのレセプトの提出、照会への回答
 - ・その他、医療・介護・労災保険、および公費負担医療に関する診療費請求のための利用
- 当院の管理運営業務
 - ・会計・経理
 - ・医療事故等の報告
 - ・当該患者さんの医療サービスの向上
 - ・入退院等の病棟管理
 - ・その他、当院の管理運営業務に関する利用
- 企業等から委託を受けて行う健康診断等における、企業等へのその結果の通知
- 医師賠償責任保険などに係る、医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等
- 医療・介護サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
- 当院内において行われる医療実習への協力
- 医療の質の向上を目的とした当院内での症例研究
- 外部監査機関への情報提供

- ・外来患者⇒不同意届 外来の呼出し等について同意できない場合に提出していただいておりますので、届出書は各外来受付窓口へ提出して下さい。
- ・入院患者⇒同意書 病室のネーム記載、電話の取り次ぎ等同意事項について入院時に記入いただいております。

※手続きの詳細のほか、ご不明な点については、窓口までお気軽にお尋ね下さい。

産科休診のお知らせ

4月から婦人科のみの診療になります。

- ・診療日：火曜日、木曜日
- ・受付時間：8時15分から11時00分
(午後は医師不在となります。)

◎産科については常勤医師不在のため休診となります。

外来で妊娠と判断した時には、患者さんの希望する病院に紹介致します。

編集後記

野辺地スキー場のリフトで隣り合わせた方に「どちらからですか?」「フランスです。」と女性スキーヤー。「??」「日本語うまいですね。」「ありがとうございます。今日は三沢から来ました。雪が多くていいですね。」「スキー場はいいけど除雪がたいへん。」「…この雪で喜んだのはスキー場だけかな。でも肝心のスキーヤーやボーダーは少なかった。やはり休日になれば除雪・排雪に大忙しなのでしょう。…大変な雪、雪、雪でした。春が眩しい!…」

原稿を書くのは大変。原稿を寄せてくださいました方々大変有り難うございました。

編集委員

澤田 雅章(医局) 成田 一教(医事課)
野坂 嘉友(検査科) 四戸 まるみ(看護局)
阿部 俊郎(薬剤科) 松村 明美(看護局)
前田 ひとみ(看護局) 鈴久名 栄子(管理課)

平成17年4月30日発行
広報「わかすげ」第7号
発行：北部上北広域事務組合
公立野辺地病院

〒039-3141

青森県上北郡野辺地町字鳴沢9-12